

# (1) 障害者雇用の進め方（初めての障害者雇用）

あくまでも一例ではありますが、段階的に障害者雇用を進めることが良いと考えます。事業所内で検討してみてください。

## ① 障害者雇用の理解を深める

- ・ハローワークや支援機関に相談しましょう。
- ・ハローワークでは特別支援学校の見学会や障害者雇用が進んでいる事業所への見学を行っています。参加してみましよう。

## ② 配置部署や従事する職務を選定する

- ・社内で検討しましょう。
- ・その際、「障害者職業センター」では障害者の行う職務について、アドバイスを行っています。また、ハローワークの雇用指導官へご相談ください。

## ③ 受け入れ体制を整え、労働条件などを決める

- ・募集人数、採用時期、採用部署などを決定しましょう。
- ・受け入れ後の指導担当者（体制）や設備についても検討しておくとう良いでしょう。

\* 採用後、職場定着するには現場の指導担当者の「障害者への配慮」がとても大切です。また、人事担当者は現場の指導担当者が負担とならないよう支援や配慮が必要です。

## ④ 採用活動を行う（募集～採用）

- ・ハローワークへの「求人の申し込み」をしましょう。
- ・ハローワーク厚木では「障害者ミニ面接会」等も行っていきます。活用してみましよう。
- ・障害者を雇い入れる際に、助成金が受けれる場合がありますので、どんな助成金があるか確認しておきましよう。

\* 次頁に参考として面接の際に確認しておくほうが良いポイントを記載しますのでご確認ください。

## ⑤ 職場定着

- ・障害者職業センターに相談し、「ジョブコーチ支援」という職場定着の支援を受けることも検討してみましよう。
- ・採用された方が障害福祉サービスの「就労定着支援」を受けている場合もあります。本人と相談してみましよう。

# (参考) 面接についてのポイント

面接で確認しておくの良いポイントをいくつか記載しますので、参考にしてください。

面接のポイント	面接（例）
○ 仕事への適正、職務遂行能力についてできるだけ具体的に確認しましょう。	以前のお勤め先でも入力作業などの事務職をしていたのですね。このような仕事はどうでしたか、ご自分に合っていると思いますか。
○ 一般の求職者と同様に、退職理由を尋ねても構いません。	以前の仕事はどうして辞めることになったのでしょうか。差し支えなければ教えてください。
○ 病気や障害の確認をするときには、その理由もあわせて説明するようにしてください。病気や障害の情報は、個人情報の中でも特に注意が必要です。（業務上の必要性に限定して聞き取るようにしましょう。）	企業では、従業員の安全衛生に配慮した雇用管理が義務付けられていて、さらに病気や障害のある従業員に対しての合理的配慮を提供する必要があります。●●さんにどのような配慮を行えばよいのか考えるために、よろしければご病気や障害について教えていただけますか。お話していただける範囲で構いません。
○ 診断名だけでなく、職務遂行の確認のために必要な範囲で、具体的に症状などを確認しましょう。	どんな症状があったのか、今はどのような状況なのか、少し詳しく教えてください。
○ 必要な配慮について確認しましょう。（聞き取った必要な配慮が、職場で提供できる範囲かどうか、もし提供できずらい場合は話し合いによって合点できるかどうかポイントになります。）	●●さんは職場の人（達）から何か配慮してほしいことはありますか。
○ 提供できる合理的配慮の限界を説明します。	話をまとめると、内線電話は大丈夫だけど外線電話は、仕事に入れないうほうが良いのですね。あと、パソコン作業など、できるだけ毎日決まった仕事と同じスケジュールでできると良いということですね。 電話は配慮可能です。でも毎日決まった仕事を続けてもらうことは難しいと思います。1週間単位で変更して、だいたい同じような仕事を繰り返してもらおうことになります。
○ 医師から働くことについて了解が出ているかどうか、今後の治療の必要性や通院・服薬の状況について確認します。	最近体調はいかがですか。 主治医の先生は、働くことについてどのようにおっしゃっていますか。
○ 労働時間についてはお互いによく確認が必要です。	慣れるまで当分の間、残業はできないとのことですので、残業はできなくても構いません。私たちは週5日間、1日4時間から6時間働ける人を探しています。働けそうですね。
○ 支援機関を利用している人には、どのような支援や訓練を受けているのか確認しましょう。	就労移行支援事業所でどのような訓練を受けましたか。
○ 通院や服薬が勤務に支障がないか確認します。	通院と服薬は続けていらっしゃいますか。仕事に影響はありますか。
○ 病院以外に支援機関の利用があるのか、その支援機関からどんな支援がうけられるのか確認しましょう。	病院の先生以外に、どなたか働くことに相談ができたり、また、何か具体的に支援を受けている機関はありますか。
○ 必要に応じて（支援機関への）連絡の可否についても確認しておきましょう。	支援機関の支援員の方には、私どもに一度連絡をしていただくようお願いいただいてもよろしいでしょうか。
○ 長時間の通勤は、労働時間と同じように疲労の蓄積原因になりやすいため、継続した勤務に支障がないかどうか確認しましょう。	通勤のことについてお尋ねします。ご自宅から会社まで、どのような交通機関でいらっしゃいますか。時間はどのくらいかかりそうですね。